

渡辺信明展

watanabe nobuaki new paintings

1962年、滋賀県生まれ。
1988年、京都市立芸術大学大学院美術研究科修了
1987年、ギャラリー16（京都）にて初個展を開催。以降、ギャラリーすずぎ（京都）、ギャラリー白（大阪）、複眼ギャラリー（大阪）、ギャラリー・プス（東京）、テンバ・Aギャラリー（大阪）等で個展を開催。主なグループ展に1991年、現代美術'91-素材はいろいろ-（徳島県立近代美術館・徳島）、次代を担う作家展（京都府立文化芸術会館・京都）にて優秀賞を受賞。1992年、筆跡の誘惑-モネ、栖鳳から現代まで-（京都市美術館・京都）。1994年、アート・ナウ'94-啓示と持続-（兵庫県立近代美術館・兵庫）。1996年、VOCA展'96現代美術の展望（上野の森美術館・東京）。1999年、風の芸術展（枕崎市文化資料センター・鹿児島）にて準大賞を受賞。2001年、京展（京都市美術館・京都）にて京展賞、京都市美術館賞（コレクション賞）を受賞。2003年、吉原治良賞展（大阪府立現代美術センター・大阪）にて優秀賞を受賞。2006年、京都市芸術新人賞受賞。2007年、“ダイアローグ”コレクション活用術vol.2（滋賀県立近代美術館）。2008年、京都美術ビエンナーレ（京都府立文化博物館・京都）等多数出品。現在、京都市立芸術大学教授。

花

の

糸

昨年、私はフィラメント (filament) というタイプの作品を描いた。細かい糸状の構造を指す言葉で、白熱電球などの発光部分や植物という雄しべの葯^{やく}を支える柱状部分（花糸^{かし}）も意味する。吊り下がる細枝、広がる根っ子、あるいは神経のシナプス。それらが抵抗体となってあたたかも光りを放つというイメージが、今私の制作に大きく関わっている。